

現在の日本の二院制における参議院の存在意義について

1240412 岡林 倅生

担当教員 上村 浩

研究背景

現在、日本の国会は、衆議院と参議院で構成される二院制を採用している。また国会の二院制は、衆議院の優越などの制度などにより、衆議院に権限が集まった状態となっている。このような状態で、参議院による否決等は実質的に困難なものとなっている。

研究目的

本研究は、現在の日本の国会における参議院の存在意義について明らかにすることを目的とする。具体的には、「ナッジ理論」を援用し、参議院は国会という機関における「スラッジ」の機能を果たすと仮定し、「スラッジの逆効果」という観点から考察した。

研究方法

参議院から提出された法案に対する、参議院の否決・修正、またその法案に対する議論の事例を3つあげ、これを詳細に考察することで、参議院の意義を検討した。

結果

第1に、参議院による否決権の行使は、時間的なスラックを生み出し、再考の議論を可能とする。これにより議論が深まる可能性がある。またこの議論は、国民的な議論に発展する可能性もある。第2に、衆議院の法案が可決された事例においても、法案の成立過程において、衆議院の法案に対する修正案を参議院が提出するなど、参議院の視点も踏まえた議論が行われていたことが理解される。

考察・結論

参議院の否定権の行使は、意思決定の延期を可能とし、また衆議院において再考の機会を与えるため、「議論を尽くす」という意味から重要である。さらに、国会での意思決定の延期により、国会で議論が尽くされていることを国民が認知する時間が生じる。このことは国民の国会に対する信頼に繋がるとともに、政治に対する関心も高める可能性がある。